

読む得! 在宅医療と介護の連携

～身近な事例から～ 第21回

さまざまな最期のカタチ

「残された時間をどう過ごしたいか」を本人や家族に聞き、医師・ケアマネジャー・施設スタッフなどが連携し、支援しています。

◎**自宅での最期を希望したケース** 介護用ベッドの手配や医師の訪問診療など、支援者がチームとなり迅速に対応しました。介護保険の申請から亡くなるまでは20日間でしたが、自宅で家族に見守られ、最期の時を迎えました。

◎**病院での最期を希望したケース** 子どもと二人暮らしだったため、「働き盛りの子どもに負担をかけたくない」と病院への入院を希望し、最期の時を迎えました。

◎**施設での最期を希望したケース** 「長年過ごした施設で最期まで過ごしたい」という思いがあり、家族やスタッフに見守られ、最期の時を迎えました。



相談は高齢者なんでも相談室・かかりつけ医・ケアマネジャーへ

「最期の時」は誰にでも訪れます。本人や家族の思いに寄り添い、医療・介護に関わる支援者がチームとなり、対応します。

高齢者なんでも相談室 我孫子北地区 ☎7179-7360、我孫子南地区 ☎7199-8311、天王台地区 ☎7182-4100、湖北・湖北台地区 ☎7187-6777、布佐・新木地区 ☎7189-0294